

Special Essay

半歩遅れの読書術

看護学科 西田 和子

このテーマは某新聞のコラムタイトルの引用である。現在の心境に最も近い半歩遅れの‘遅れ’に共感を覚え目が留まったのである。技術革新のめざましい発展、ハイテク、ハイスピードの社会動向に、日常生活も大きく影響されている。新幹線通勤、日帰り東京出張、毎週近隣諸国へ出張する企業戦士などなど、あわただしい日々の中、一瞬立ち止まり、歩みを休めることも必要なのではと昨今感じている。

30歳代以降、時間の流れは加速度を増し、一日一日が速く過ぎ去っていくように感じる。歳とれば歳月は速いものだと言った周囲の大人の言葉を思い出した。私だけでなく、ほとんどの人がそう感じるらしい。しかもこれはマーフィーの法則の1つにあると耳にした。マーフィーの法則とは？と思い、図書館でその本を探した記憶がある。およそ10年前のことである。

今日、様々な情報があふれ、テレビやパソコン（インターネット）で居ながらにして世界中の情報を得ることができ、映像を含め視覚的に様子を伺い知ることができる。個人的にもここ数年外国とのメールの発信が増えた。世界中の人と発信し、様々な国を旅する疑似体験を味わうことも、また商品を購入する経済生活も可能となった。専門領域の文献はもとより、世界の政治、経済、文化、医療、法の条文に至るまで幅広く情報を得ることが可能である。何とも便利で忙しい世の中となったことか。

一方、溢れる情報の中で、情報に埋もれ、情報が発信する必要なメッセージを多く見落としているのではないかという危惧を感じる。つまり、ゆっくり時間をかけて物事の本質を見極める情報の捉え方をしているのかという懸念である。自身の日常生活を振り返ると、講義や講演の準備の際、必要なテキストや資料に目を通し、取り寄せた専門領域の論文を斜め読みし、と必要に迫られ限られた時間にスピードを加速させて本を読むのがやっとなという現状である。新聞はまとめて土曜、日曜に（土・日出張の際は2 - 3週分まとめて次週となる）、新刊図書などは見出しをみて素通りが多く、良人が読み終えた本をしばし手にして読む程度となった。半歩遅れどころか数十歩も遅れているのが現実である。

数十歩遅れているとはいえ、本や新聞をじっくり読み味わう時は違った充実感を味わうことができる。テレビやラジオで放送されたニュースを新聞でもう一度読む、新刊本あるいはかつて読んだ本に目を通すとき、新鮮な考え方に驚き、あるいは同じ文章に違った感動を味わう時がある。新聞や本を読む時、不思議と時の流れは止まり、その時は一日の中でも至福のひと時を感じる。

不思議な至福のひと時を多く味わうために、半歩遅れの読書を目指したい。

